

## 「勉強しない中学生」親が取るべき5つの"最終手順"

思春期の子に「余計な声かけ」はむしろ逆効果

石田 勝紀：教育デザインラボ代表理事、教育評論家

2023年10月05日



勉強へのモチベーションが全くない子どもに、どう対応すればいいのでしょうか（写真：mits/PIXTA）

### 【質問】

中学1年息子のことで相談です。中学受験をして私立の中学に進学したものの勉強へのモチベーションは全くなく、日々ゲームやスマホ三昧です。勉強について話すと反抗もしてきます。何のために私学に入ったのかわかりません。家庭教師をつけたりしましたが効果はなく……。勉強だけが全てではないと頭ではわかっているものの、どうしても親として子どもに勉強はしてもらいたいと思っています。このような子にどう私は対応していけばいいのでしょうか？

（仮名：福田さん）

## 中学生ともなれば、親の声かけも逆効果に

偏差値や学歴が全てではないと思いつつも、心の底では、勉強はできないよりはできるほうがいいし、やらないよりはやるほうが望ましいと思っている。そんな親御さんは少なくないのではないでしょうか。親としてのそうした気持ちはよくわかります。

と同時に、福田さんの質問は子育て、家庭教育の核心的な質問でもあります。「子どもの勉強に関する悩みが少しでも軽くなれば、子育て全体の大変さが随分と変わってくる」という親御さんに多数出会ってきました。

考えてみれば小学校1年生から学校が始まり、多くの子どもたちは高校3年生まで学習をします。つまり、最低でも12年間は勉強と付き合いしていくわけですね。それは親としても同じで、子どもの勉強に気を遣う12年間でもあるわけですね。その間、宿題やテスト、成績や入試の合否などを経験していきます。できればストレス少なく、よりよい結果を出しながら進んでもらいたいと思うのは親心として当然かもしれません。

しかし、子どもが小さければ多少の声かけで勉強することはありますが、思春期の頃ともなると、声かけはむしろ逆効果になると考えていいと思います。さらに福田さんのお子さんの現在の状態からすると、表面的な対応では勉強に向かうことは難しいでしょう。

## 親が関与したほうがよいケースも

「基本的に中学生になったら、親は勉強には関与しないほうがよい」と筆者は常々お伝えしていますが、福田さんのケースでは、一時的に親が関与する必要があります。なぜなら、このまま進むと親のイライラは日に日に増し、親子関係がさらに悪化する可能性もあるからです。

そのためには以下の5つのステップで対応されてみてください。

### ① 家族会議を開く

極めて重要な話をする場を設けるということです。家族全員集合で行います。なお、当然ながら、子どもに説教する場ではありま

せん。今、親が気になっている点について、子どもはどのように考えているか意見を言ってもらい、考え方の調整を行います。

#### ② はじめに目的について共有する

何のために家族会議を開いているか、目的について親から話をします。福田さんの場合は、「今後の勉強をどのようにしていくのか？」を話すことが目的となります。

#### ③ 子どもから話を始める

目的の確認ができれば、現在の勉強に対して、どうしていくのか、どうしたいのかについて子どもの考えを話してもらいます。しかし、実際は、中学生ともなると「別に」とか「どうでもいい」というような漠然とした言葉で返してくることが多いです。しかし、それで問題ありません。子どもから意見を先に言う場を設定することが大切であって、内容は重要ではありません。注意点としては、子どもの上記のような発言に対して親が感情的な反応をしないことです。

親または子どものいずれかが感情的になった場合は、一時中断して、家族会議の日を改めます。話し合いにならないためです。それだけ真剣で冷静な話し合いの場であることを認識しておきます。

#### ④ 親からある“問いかけ”をする

さて、ここが最も大切な部分になります。子どもからの話が終わったら、次に親から子どもに話をしていきます。

通常の話し合いでは、親は「勉強は大切だからしっかりやってほしい」という希望を子どもに語ることがあります。しかし、子ども側からすればなぜ、親のためにやらなければいけないのか、と疑問に思っています。

また、親が「自分のことは自分で決めなさい」と言うこともありますが、その後の生活で、親が口出しをしてしまい、子どもは「親は自分で決めなさいと言いながら、また関与してくるウザイ存在」と感じることもあります。

## 子どもの率直な気持ちを確認する

親は上記のような要望や指示ではなく、子どもの意思の確認をする「ある問い」をします。意思の確認といっても「今後、勉強をやるのか、やらないのか？」ではありません。

「今後、学力を伸ばしたいのか、伸ばしたくないのか？」という問いです。

「勉強をやるかやらないか」という問いは、子どもは「やらない」と答えるか、不貞腐れたように「やればいいんだろ！」と答えることがほとんどです。そのような言葉は親に無理やりやらされていることに対する抵抗として発言されており、実際、親にやらされていることと何ら変わりません。

しかし、学力を伸ばしたいと思っているのかどうかという問いに対しては「伸ばしたくない！」とは言い難いものがあります。子どもは本音のところでは自分を伸ばしたいとは思っていますが、様々な要因によって勉強したくない状況が生まれているだけです。

このような子どもの率直な気持ちを確認するためには、家族の誰か一人が感情的になってしまうと難しくなります。ですから冷静かつ真剣に話を進めていきます。

#### ⑤ 具体的な方法について話し合う

仮に④の段階で、「自分は学力を伸ばしたいと思っていない」と答えた場合は、それを受け入れます。受け入れられたことで、子どもは自分の言葉に責任を持つこととなります。しかし、これまでの事例では、冷静な話し合いができれば、かなりの確率で「伸ばしたい」という回答が出てきます。この言葉が出てきたら、次に、勉強を阻害している要因を洗い出します。阻害する要因とは、「勉強法がわからない」「何から始めていいかわからない」「わからないことが多くてついていけない」などです。

それらに対して1つひとつ対策を立てていきます。そして何をいつ具体的にどう進めていくのかアクションプランまで具体的に決めていきます。

ここまでやらないと行動ができない子は実際たくさんいます。逆に言えば、ここまでやることで実際に勉強に向かうことができるとも言えます。

以上、5つのステップについて書きました。いかがでしょうか。勉強しない子に「勉強しなさい」という声かけをしても効果がなく、また塾に入れたり、家庭教師をつけたりしても伸びない理由がわかると思います。勉強方法だけを教えても、そもそも本人のやる気や希望が出てこなければ全く意味がありません。

このようなステップは一見遠回りのように見えて、実は一番の近道だったりします。ぜひ、一度実行してみてください。



この連載の記事一覧は[こちら](#)

# 東洋経済

O N L I N E

## 東洋経済ID関連サービス

- The ORIENTAL ECONOMIST
- 東洋経済education × ICT
- 会社四季報オンライン
- シキホー！Mine
- 業界地図デジタル
- 東洋経済STORE
- 東洋経済デジタルコンテンツライブラリー
- 株式ウイークリー

## 法人向け関連サイト

- 法人向けデータサービス
- 東洋経済セミナー
- 東洋経済広告
- 東洋経済カスタム出版
- 東洋経済プロモーション
- 教科書の森

## 東洋経済新報社について

[運営会社](#) | [採用情報](#) | [公式アカウント一覧](#)

## 東洋経済オンラインについて

[サービス紹介](#) | [広告掲載](#) | [WEBサービスでの情報収集](#) | [プライバシーポリシー](#) | [知的財産](#) | [特定商取引法に基づく表示](#) | [東洋経済ID利用規約](#) | [利用規約](#) | [お問い合わせ](#)